

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590800086		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム岩国平田		
所在地	山口県岩国市平田5丁目27-55		
自己評価作成日	平成25年11月2日	評価結果市町受理日	平成26年6月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家は、全国190箇所以上のGHを展開させて頂いております。愛の家グループホーム岩国平田は、中四国九州エリアと地域としては広いですが、他の愛の家との情報共有が行える体制を作っており、ホームでの「夏祭り」等を通じて、地域との連携を意識した運営を実践しております。また、日々利用者様お一人おひとりのADLに合わせたケアを行い、寄り添ってのコミュニケーションを行っております。そして、とても明るいスタッフが揃っておりますので、毎日いつでも笑い声と歌声の耐えない雰囲気になっております。その他周囲の自然を満喫しながらの散歩・近隣のスーパーへの買い物・園芸・食事やおやつ作りなど、ご利用者様の「想い」に寄り添ったケアを心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の中の事業所という事に配慮しておられ、自治会に加入され、町内の清掃や班長会議には職員が参加され、利用者は散歩時や買い物時などで地域の人たちと挨拶を交わされるなど、馴染みの関係づくりに努めておられます。事業所の夏祭りや認知症サポーター養成講座に地域の人たちの多くの参加を得られたり、地域のボランティアの受け入れなど、地域や地域住民との連携やつながりを深めておられます。献立は法人本部から提供され、美味しいものを美味しく食べられるよう日々の食事にも配慮しておられ、調理担当者一名確保されて、三食共事業所で調理しておられます。家族の意見や要望を聞く機会として、年2回事業所で家族会を開催される他、年1回は法人本部で家族アンケートを実施しておられ、それらの意見や要望を運営やケアに反映させて、改善に努めておられます。法人全体でフォトコンテストやレシビコンテスト、ガーデニングコンテスト、業務改善の為の提案者には職員表彰をおこなわれる他、毎月、定期的に開催される内部研修は法人から資料が提供され、その資料を基に研修を実施され、自分の得意分野は委員会活動としてケアや業務に活かしておられるなど、職員の資質や意欲の向上に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「錦帯橋のように私たちは地域の架け橋になります」という事業所独自の理念を各ユニットに掲示し、又法人理念と併用しながら、実践に繋げる様に努めています。	地域密着サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を各ユニットに掲示し、毎朝の申し送り時に法人の運営理念を唱和し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、町内会の清掃・運営推進会議などの参加の声掛けを行っております。地域への日常的な散歩を行っており、近所のスーパーなどへの買い物も行っております。又近隣幼稚園の定期訪問で交流も実践しております。	自治会に加入し、職員は川の清掃や班長会議に参加している。地域に事業所の夏祭りや認知症のサポーター養成講座への参加を呼びかけ、地域の人が多く参加している。近くのスーパーでの買い物や回覧版を廻したり、散歩時に地域住民と挨拶を交わしている他、近くの幼稚園児の訪問や知人がコーラスのボランティアとして訪問するなど、地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会に入会させて頂き、地域の夏祭りや、敬老のつどい等に進んで参加しております。又地域包括支援センターの方と協力し、地域の方に「認知症サポーター講座」を開催(6月)しました。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回評価して頂いた内容を全スタッフに周知し、又今回は全スタッフが前回内容を参考に作成に携わってもらっています。	運営者や管理者、職員は評価の意義を理解している。今回の自己評価は管理者が評価の意義や項目について説明し、自己評価をするための書類を全職員に配付し記入してもらい、話し合いまとめている。前回の外部評価結果について話し合い、全職員での自己評価への取り組みや運営推進会議のメンバーの拡大など、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社内での規定で、2ヶ月に1回必ず運営推進会議の開催を掲げていますので、行うようにしています。緊急時における協力・夏祭りの呼びかけ・認知症サポーター講座の提案等、会議を有効に活用すべく取り組んでおります。	新たに地域の人(近隣の人や自治会関係者、成年後見人、近くの施設の関係者等)をメンバーに加え、2ヶ月に1回開催している。活動報告等をして意見交換を行っている。認知症サポーター養成講座の開催や事業所の夏祭りへの参加の声かけ、後見人制度についての研修を実施するなど、意見を活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談等あれば、電話や直接出向いて助言を得ています。又、市からの伝達等に関しても、メール・FAX等で随時確認し、現場に伝えています。	市担当課とは、運営推進会議の他、電話やFAX、メール、直接出向くなどして、相談して助言を得てたり、情報交換するなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体のマニュアルもあり、身体的な拘束だけでなく、言葉による拘束もあると全体会議などの時間を使い話し合いを行っております。又現場内でも拘束に繋がらない様、都度指導しています。	マニュアルがあり、研修で学び、身体拘束をしないケアについて全職員が理解しており、言葉や薬による拘束も含め身体拘束をしないケアを実践している。2階の出入り口は階段からの転落防止に備え、職員の目が届かない時は施錠する事もあるが、一階の出入り口や玄関は施錠していない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体のマニュアルもあり、言葉・身体・投薬等の虐待にあたる勉強会を行っています。又些細な傷に関しても、必ず状況を確認しております。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、対象者がいないので行っておりませんが、そうなった場合は研修を受けるなどの体制を作っています。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、ご家族様と重要事項説明書の読みあわせを行い、都度不明点などの確認を行っており、ご家族様には十分な説明を得られております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社全体の相談窓口を設けており、意見箱の設置もしている。また、本社主催のご家族アンケートを毎年実施しており、ホームにフィードバックされ改善に向けている。ご家族様の意見を元にケアプランを作成、日々のケアに繋げています。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、利用開始時に家族に説明し、周知している。面会時や年2回開催する家族会、法人が年1回実施する家族アンケート等で家族の意見や要望を聞いている。意見や要望はわかりやすくまとめ、職員間で共有している。名札の着用や車いすの転落防止対策など、反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回スタッフとの個人面談を実施し、全スタッフから意見・要望等を聞き取りしております。毎月1回の全体会議やユニット会議でスタッフ同士の意見交換や提案などの反映も行っております。又都度現場に足を運び、個別にスタッフからの意見収集をしております。	管理者は、毎月一回開催する全体会議やユニット会議、リーダー会議の他、個人面談を年2回行い、職員の意見や提案を聞いて、それらの意見や提案を、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を通じて、それぞれが「やりたい事・特技」を委員会として実践しています。無資格のスタッフには、会社制度を利用した資格取得を促しております。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加を促し、全体会議等で説明・閲覧ファイルにて確認してもらい、研修を促しています。又、内部研修では、本社での研修資料を基に毎月定期的に行っております。その他会社主催の研修(リーダー研修・ケアスタッフ研修等)への参加を促しております。	外部研修は参加を促し、参加者は会議で復命報告している。新人職員は、法人が研修を実施している他、資格取得の支援をしている。法人の資料を基に毎月テーマを決め内部研修を実施している。法人の5項目の credo (信条)を毎朝唱和し、法人内でフォトコンテストやレスピコンテスト、ガーディニングコンテストなどの職員表彰、各委員会活動を行うなど、職員の意欲向上の機会としている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩国市のグループホーム協議会に入会させて頂き、情報共有しています。又、定期的に居宅・老健等に訪問をし、情報交換・収集に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに行かせて頂き、ご本人様にお話をさせていただき ご本人様が困っていることや不安なことなど傾聴する事で、安心して過ごして頂けるよう努めています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時には、ご家族様が不安なく利用者様を入居出来るよう説明を行い、いつでも相談できるような関係作りを構築しています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様が必要としている支援を見極め、ご本人様にとってより良いものを提供できるようにしています。又、サービスの変更(入院等)があった時などは、都度相談し、変更しています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の不安な気持ちなど察し、ゆっくりと傾聴し共感できるような関係作りを行っています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の日々の状況など、毎月の新聞発行と共に状況のお手紙を送付している。ご家族様来所時には、コミュニケーションを通して細かな状況を伝えるようにしています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院などに出かける機会・入居前に住んでおられた町へのドライブ、又馴染みの関係の方の来訪などがあります。今後も関係が継続していけるような関係作りを支援してまいります。	友人や知人の来訪があり、家族の協力を得て、葬式への参加、馴染みのスーパーや店舗での買い物、美容院の利用、年賀状を出す支援等、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全入居者様が出来る合同のレクリエーション・各ユニット毎のレクリエーション・個別に傾聴したり歌を唄ったりする個別レクリエーション等通じて仲良く出来る様、努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に、お引越しをされた際、ご本人様・ご家族様には「何かお困りの時には、いつでもご連絡ください」と声掛けを行っています。そして、お引越し後も、お引越し先に出向き、お話の出きるような関係を構築しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のお話の中から、意向をお聞きしています。そして、ご家族様との会話の中から意向の把握に努めており、コミュニケーションの難しい入居者様の把握についてはご家族様に聞き把握に努めています。	日々の関わりや日常会話の中での利用者の言葉を大事にしており、必要に応じ筆談もしながら利用者の思いや意向を把握している。思いや意向はカンファレンスで話し合い、利用者の意向に添った支援が出来るよう配慮しており、困難な場合はそれまでの生活歴や本人の暮らし方、家族の話等を参考に本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の生活歴や馴染みの暮らし方など、多方面からの情報収集に努めています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務に入る前の申し送りやカンファレンス等で、日々の状態の把握に努めています。又各ユニットに「健康シート」を設置し、ご入居者様の健康管理を共有しています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は、社内で決められた様式があるので、その様式に沿って作成しています。また月に回のユニット毎のカンファレンスや半年後とのスタッフによるモニタリングやアセスメントを作成、その他年2回の家族会での意見を元に、計画作成を行っています。	本人や家族の意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。ケアカンファレンスを毎月行い、サービス担当者会議で、短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・日報に加え、申し送りノート・健康シート等などで、職員間での情報共有を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のご希望に添えるよう来所時などにコミュニケーションを図り、意見を聞くようにしています。ご本人様との会話の中で、希望に添えるものはないかと日々支援しています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーへ買い物と一緒に連れしています。又、近隣幼稚園との交流会やボランティアの受け入れをし、楽しく生活できるよう支援しています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院であるいしい記念病院・山元歯科に加え、2週間に1度のいしいケアクリニックDrによる往診があります。往診医とは、24時間連絡可能で緊急時も駆けつけて下さる関係が出来ています。	本人や家族が希望するかかりつけ医の他、協力医療機関からは、週2回の定期往診があり、緊急時の往診や受診にも24時間体制で対応している。週2回勤務する看護師とは24時間連絡が取れる体制になっているなど、緊急時や重症化に備えているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医の24時間連絡体制と社内雇用の看護師との連携体制で利用者様の定期的な体調管理を行っています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリーを作成し、病院への情報共有し退院時は、看護サマリーを作成していただき、情報の共有が行えています。また、入居様が入院中は、スタッフがお見舞いにも行かせて頂いています。病院での状況を聞き、当ホームスタッフに伝えおき、退院後は状況に応じたケアプランの元、ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族のご希望に添えるよう、グループホームが最後の家と思って頂けるよう、契約時にお話しをしています。又折をみては、ご家族様の「想い」を確認しております。主治医との密な連絡体制を構築し、緊急時の往診・特変時の相談等、常時連携を図っています。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」に基づいて口頭で説明し、家族の了解を得ている。終末期に備えた「看取り介護にかかる指針」により、主治医や看護師との24時間の連絡体制のもとに、早い段階から家族の思いを確認し希望に応じた支援をしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故などのマニュアルが社内であり、マニュアルに沿って事故防止に努めています。また、月1回の全体(スタッフ)会議の際に勉強会の実施しています。12月にはスタッフ1名救急対応研修に参加、全体会議にて頂いたキッドを使用しスタッフに体験していただいています。	事故発生時には事故、ヒヤリハット報告書に記録し、再発防止に取り組むとともに、毎月の会議で職員間の共有を図っている。法人が作成したマニュアルにより、全体会議でマニュアルに沿った研修を実施しているが、定期的に訓練を実施し実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や食対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間を想定したものを含め、年2回開催しています。地域の方の消防訓練への参加もあり、運営推進会議等での議題にあげさせて頂いています。今年は「夏祭り」をホーム内で実施し、近隣の方にホーム内を見ていただく機会を設けています。	年2回、夜間想定を含め、避難訓練を実施している。訓練には、地域から数名の参加があり消火訓練を体験してもらっている。利用者の居室入口には移動能力を車椅子と歩行に分けてシールで表示して、災害時に備えている。地域との協力体制について運営推進会議で話合っているが、具体的な協力関係を構築するには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「入居者様は人生の大先輩」と尊敬する想いで日々関わらせていただいています。又プライバシー保護の為の研修や、不適切なケア・スタッフ都合による対応等に対し、啓発・指導など行っています。	接遇やプライバシー保護の研修で学び、職員は一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの確保について理解しており、人生の大先輩として尊敬する気持ちで、一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の心の声に耳を傾け、口に出せない要望や悲しみ・苦しみなど受容できる様、心掛けております。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の意思を尊重し、その人らしい自立した生活が安心して送れる様、「ちょっと待って」をしないよう心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容・入浴後入居者様が着たいと思う服装を一緒に選ぶなどし、いつも若々しい気持ちで過ごせる様にしております。又、お出かけに行く際には、お化粧品などの支援も行っています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、社内で決められた物を使用しています。又、食事の盛り付けやトレイ拭き、食器洗いなどスタッフと共にしております。女性の方は、主婦の大先輩なので、敬意を表すようにしております。	献立は、法人本社で作成し、食材は現地で購入して、調理担当者1名を確保し、朝食は職員が、昼食と夕食は調理担当者が作っている。利用者は職員と一緒に食材の買い物に出かけたり、味付けや盛り付け、トレイふき、食器洗いなどしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様に合わせて食事の盛り付け量・食器等で工夫しております。又、苦手な食べ物などメニュー変更し、入居者様が完食できるよう支援を行っています。水分摂取量に関しては、都度量を記入し、把握に努めています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、ご自身で出来る事は行っていただいています。義歯の衛生管理も都度行っています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用に関しては、安易にオムツを使用せず、定期トイレ誘導・パット使用等ご家族様と相談しながら、段階を踏んで検討しております。又、排泄チェック表で、排泄パターンの把握・誘導の目安として活用し、常に「自立」を意識しています。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握して、声かけや誘導などで、トイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄チェック表から個々の排便状況を把握し、各出社時申し送り時などに情報の共有を行っています。又ラジオ体操・風船パレーなど適度な運動をして、便秘予防に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴支援を行っております。入浴を拒まれる方へは、時間・曜日別のスタッフが交代するなどして、無理強いくなく入浴して頂ける様、支援しています。夜間入浴に関しては、今後の課題として認識しております。	週3回、午前は10時30分から11時30分までの間、午後は15時から16時30分までの間入浴可能で、希望すれば毎日入浴できる。利用者の希望やタイミングに合わせ入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない方への安眠方法として、暖かい飲み物の提供を行い、一緒に過ごしお話を傾聴するようにしています。寝ることを優先せず、ゆっくりと過ごしていただいております。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局薬剤師・看護師等から都度必要に応じ、確認をしています。又服薬マニュアルに添った服薬・変化が見られた際の様子観察など、「健康シート」に記載し、継続した対応を心がけています。又その人に合った服薬方法を実践しています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の食事準備・片付け・洗濯・掃除等、入居者様の嗜好などをご家族にお聞きし、ホームお手伝い等して頂けるよう支援しています。又無理強いせず、その時の体調・気分により声掛け等の工夫をしております。	部屋の掃除、料理、野菜の水やり、野菜の収穫、散歩、カラオケ、将棋、ドライブや外出、外食、喫茶店、ケーキを食べに行くなど日々の生活を共にしながら、活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換などの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・買い物・散歩等、ご入居者様にお声を掛け、出来る限り外出の機会を設けております。又個別に馴染みの美容室でのカットなど、入居者様の想いに寄り添う様、配慮しています。	散歩や買い物、近隣の公園へのドライブ、美容院の利用など、利用者の希望に添って戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、ホーム内金庫でお預かりさせて頂いておりますが、ご本人様のご希望により、お財布に多少のお金をお持ちの方もいらっしゃいます。その都度ご家族様に確認させて頂きながら支援しています。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ホーム内新聞送付時、入居者様からご家族様へ向けてのお手紙を書いていただき、送付しています。ご本人様が、電話を掛けたい時にも速やかに対応しています。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室や廊下等に、行事・日常生活の様子など写真掲示し、ご入居者様が楽しめる様、工夫しております。又毎月季節に応じた作品作りを通じ、季節感を感じて頂ける様にしております。	共用空間の明るさや音、温度、湿度などは適切で不快や混乱を招くような刺激はない。廊下や居室には利用者一人ひとりの表情がよく分かる行事の写真を掲示し、面会時は家族も利用者と一緒に写真を見て楽しんでいる。階段には職員と一緒に作成した季節ごとの貼り絵などの作品を飾り、壁際には花を飾り、リビングに掲示した本日のメニューは利用者同士の話題の提供ともなり、居心地良く過ごしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットホールのソファにゆっくりと寛いでおられ、時には、居眠りをされる入居者様もいらっしゃいます。そして、仲のよい入居者様同士の会話を楽しまれたり、他ユニットの方との交流されたり等、思い思いに過ごしていただいております。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前に、ご家族様にお話しさせて頂き、入居者様の使い慣れたものを持ち込み頂き、居心地良く暮らして頂けるような支援を行っています。	ベッド、ダンス、布団、毛布、衣服、ハンガー、鏡、写真、仏壇など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、その人らしく安心して過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ、トイレ・居室にコールを設置しております。居室で過ごされる時には、いつでもコールを押せるような配慮をし、夜間は居室内・廊下共に夜光灯があり、足元を照らすので危険性のないような支援を行っております。		

2. 目標達成計画

事業所名 愛の家グループホーム岩国平田

作成日：平成 26年 6月 20日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事故発生時、全スタッフの応急手当・初期対応の定期的な訓練の実施	全スタッフの応急手当・初期対応の習得・訓練の実施	・応急手当・初期対応の研修を全体会議等を通じて実施していく。 ・外部(消防署主催等)の講習への参加。	4ヶ月
2	36	災害時等の地域との協力体制の構築	緊急時、地域住民の方からの協力体制の構築	避難訓練、夏祭り等通じて、地域住民の方に足を運んでいただき、ソフト面、ハード面の実際の目で確認していただく。その上で、災害時の協力体制の構築について、運営推進会議等で議題提供・関係構図を図る。	4ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。